



植物や生き物との関わりを通して

主任教諭 今村 久美子

梅雨空が続く季節となりました。恵みの雨を受け、青柳幼稚園の園庭や畑では、様々な植物や小さな生き物たちがぐんぐん育っています。そして、子どもたちが植物や生き物に出会い、関わり合う姿がたくさん見られます。

栽培活動を通して

4歳児もも組の子どもたちは、先生が種をまく様子を見てから、真似をして土に指でそっと穴をあけ、種をまきました。「おもしろい！もっとやる！」と次々に種をまきました。5歳児ゆり組の子どもたちは、畑にサツマイモの苗を植えました。どのように苗を植えるのか、なぜそのように植えるのか、先生の話をよく聞いてから、一人ずつ丁寧に畑の畝に苗を植えていきました。子どもたちは、「ぼくが植えた野菜、大きくなあれ！」「虫がついていないかな」と、じょうろで水をやりたり草取りをしたりしながら毎日世話をし、生長を楽しみにしています。

また、ゆり組の子どもたちは昨年秋に植えたソラマメを収穫しました。畑でたわわに実ったソラマメをじっくり見て「下を向いた豆をとるんだって。これがいい！」と選び、収穫しました。収穫の後、みんなで集まって、一人一さやずつソラマメの皮をむいてみました。「うわー！ふっかふか。」「3つも入ってた！」など、しっとりとしたさやの中に仲良く並んだソラマメに歓声があがりました。

植物や虫との出会いや遊びを通して

園庭を散策するもも組の子どもたちは、「おまめ（カラスノエンドウ）がこんなにとれたよ」「ウメ（の実）みつけた！」「ちょうちょだ！」と、目をキラキラさせて様々な発見をしては先生に伝え、自分なりに関わっていきようとしています。

幼児期は、直接体験をして体や心を動かす経験を重ねることがとても大切です。感染症予防のための新しい生活様式の中でどうしても体験が制限されがちな現状の中、このような身近な自然との関わりを通じた直接体験は、大きな意味をもっているように感じられます。

ソラマメを収穫する
5歳児ゆり組。
「これがよさそう」



園庭を散策する
4歳児もも組。
「あ、何かいるよ！」

